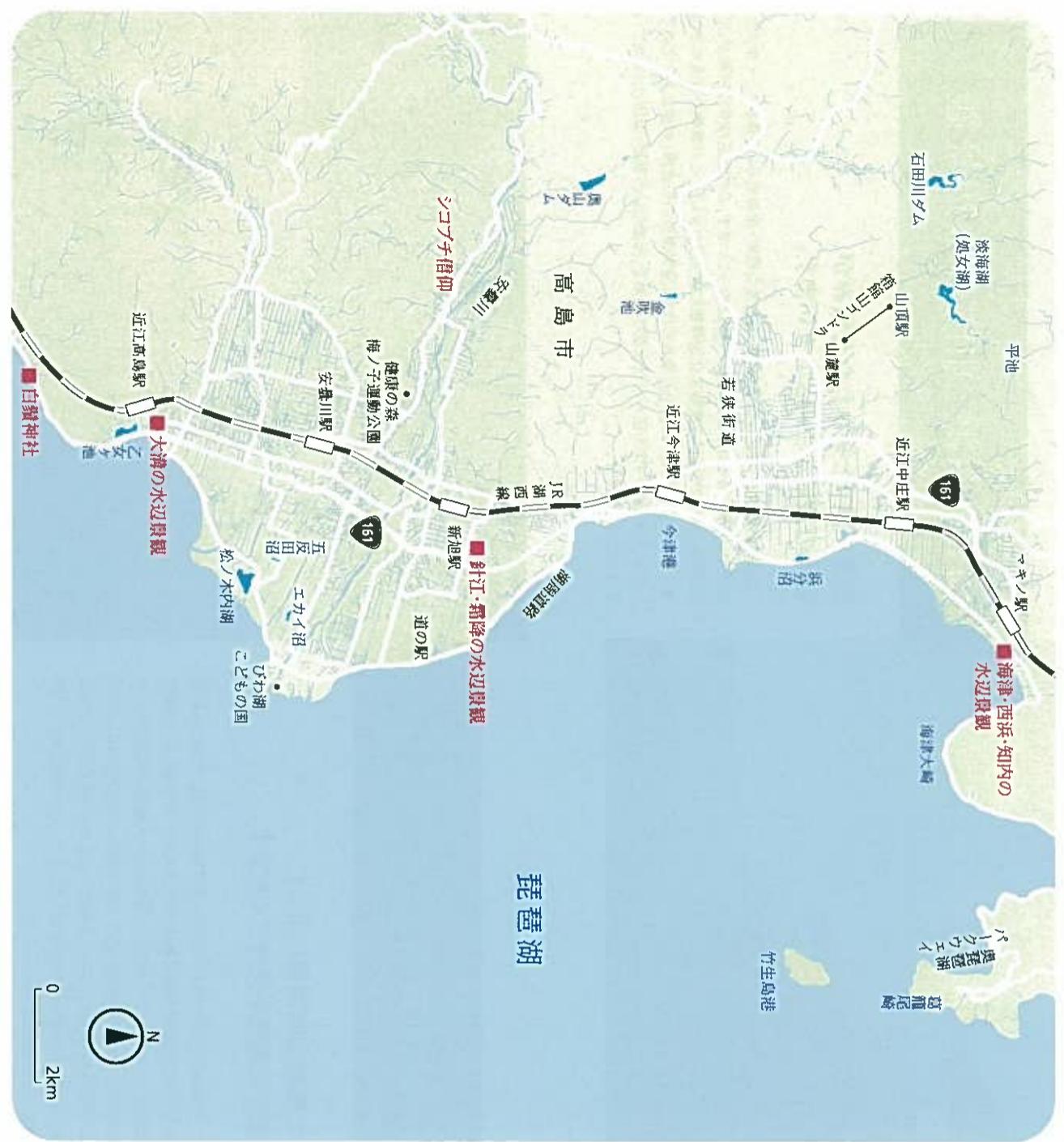


# 日本遺産滋賀・びわ湖 JAPAN HERITAGE SHIGA · BIWAKO

# 高島市

## 琵琶湖とその水辺景観

折りと暮らしお水遺産



日本には世界に誇る「たから」がたくさんあります。文化庁は、この歴史的魅力に溢れる地域の「たから」たちをさらに磨き上げるべく、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」に認定し、国内に、そして世界に発信していく事業を創設し、滋賀県と大津市・彦根市・近江八幡市・高島市・東近江市・米原市が申請した「琵琶湖とその水辺景観—折りと暮らす水遺産」は、平成27年に文化庁に「日本遺産」に認定されました。

日本遺産「水の文化」ツーリズム推進協議会  
滋賀県・大津市・彦根市・近江八幡市・高島市・東近江市・米原市  
公益社団法人びわこビジタースピューロー・公益財団法人滋賀県文化財保護協会

問い合わせ先  
TEL: 077-528-3741 / FAX: 077-521-5030

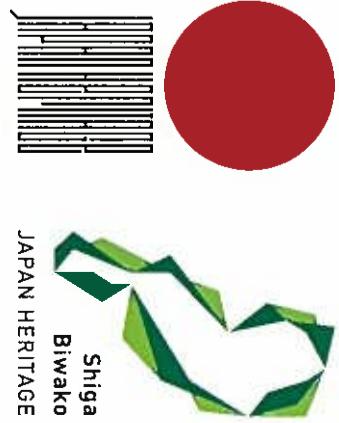


### 琵琶湖とその水辺景観 折りと暮らしお水遺産

琵琶湖とその水辺景観  
折りと暮らしお水遺産

穢れを除き、病を癒すものとして祀られてきた水。仏教の普及とともに、瑠璃色に輝く「水の淨土」の教主・薬師如来が広く信仰されてきました。滋賀県内には、「水の淨土」である「琵琶湖」をのぞんで多くの寺社が建立されており、今日も多くの人々を惹きつけています。

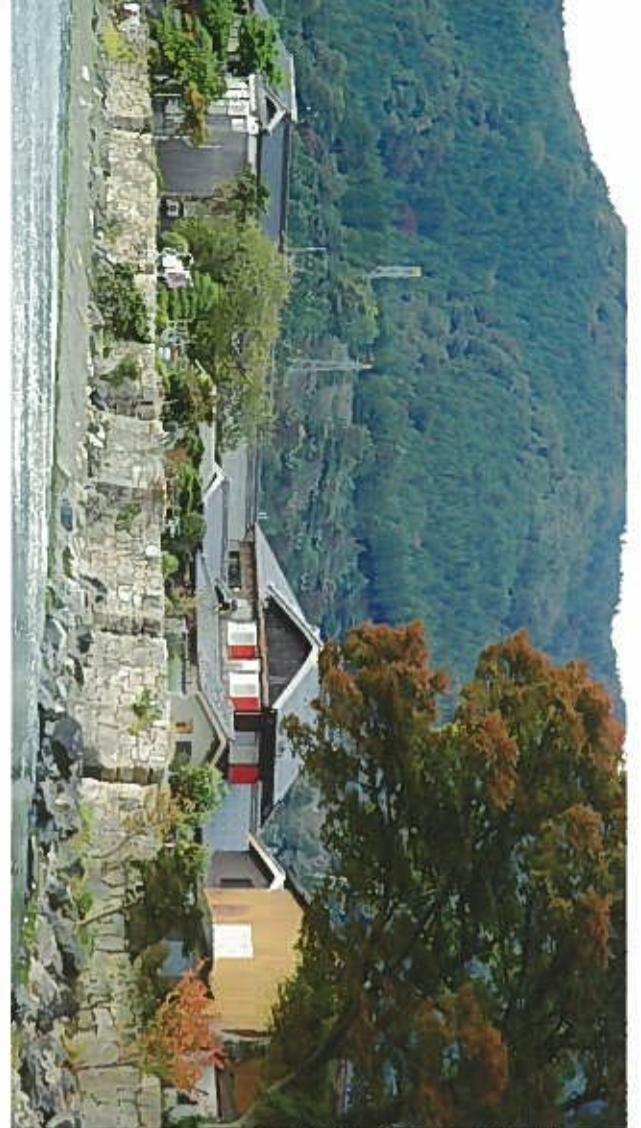
また、くらしのなかには、山から水を引いた古式水道や湧き水を使いながら、水を汚さないルールが、現在も伝わっています。さらに、湖辺の食事や湖中の島では、米と魚を活用した鮒ずしななどの独自の食文化やエリなどでの伝統的な漁法が育まっています。多くの生き物を育む水郷や水辺の景観は、芸術や庭園に取り上げられましたが、近年では、水と人の営みが調和した文化的景観として、多くの現代人をひきつけています。ここ滋賀には、日本人の高度な「水の文化」の歴史が残されているのです。



## 古き港町の面影 海津・西浜・知内の水辺景観 重要文化的景観

湖岸に堂々と築かれた石積みが、  
独特の景観を生み出しています。

海津・西浜・知内地区は琵琶湖北部の主要な港町・宿場町そして漁村として栄えた場所で、湖岸に築かれた防波石垣が特徴となっています。この地区の水辺景観が、平成20年に全国で5番目の重要文化的景観に選定されました。その景観を構成する重要な要素として、海津・西浜の石積みのほか、漁業組合の旧倉庫、町家などを定めています。町家は、いずれも江戸時代末期の建築で、街道沿いの宿屋・商店として建てられた木造の建築です。



## 生きた水がめぐる 針江・霜降の水辺景観 重要文化的景観

川の周囲に生きる人々は  
水を巧みに利用し、今なお継承しています。

針江・霜降地区は、豊富な湧水を利用する「カバタ文化」で知られています。この湧水を「生まれる水」と書いて「生水(しょうず)」と呼び、日々の生活の中で大切に使われています。衆々の「カバタ」で湧き出た「生水」は、針江大川や小池川から内湖を通じて琵琶湖へと注がれます。湖岸にはヨシ原が広がり、日本の原風景とも言うべき景観が現在も残されています。ヨシ原は琵琶湖に棲む多様な魚類の産卵場所となっています。静かな郷に生きた水がめぐる貴重な景観がここにあります。

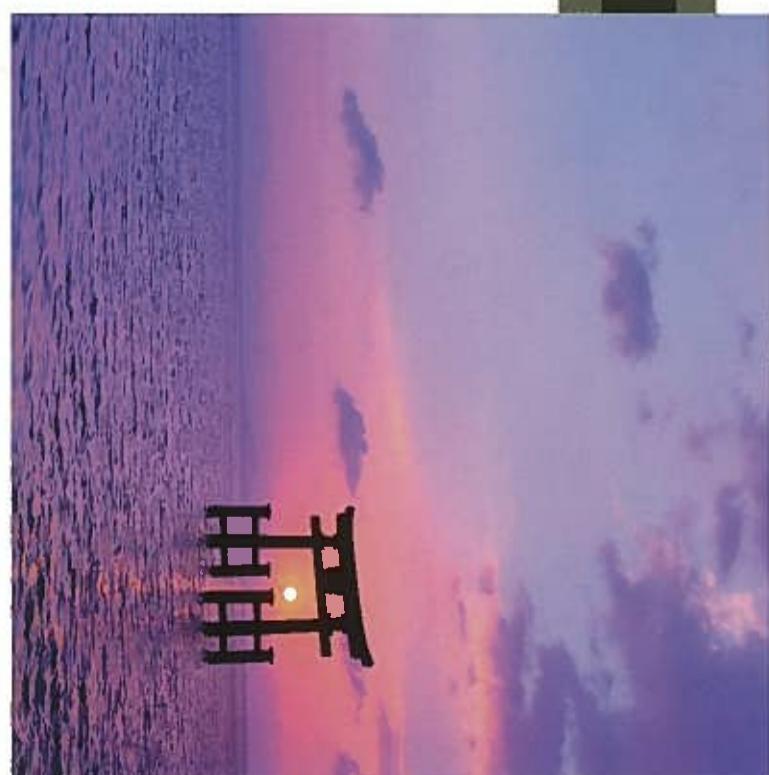


## 湖上に浮かぶ大鳥居 白鬚神社 重要文化財(建造物)

大鳥居は時間帯によって  
様々な表情を見せてくれます。

琵琶湖に浮かぶ大鳥居が有名な、近江最古の大社。「白鬚」という社名が示すとおり延命長寿の神様が祀られており、参拝客も多い滋賀の絶景パワースポットです。境内には著名な歌人の歌碑が多い、これも見所の一つ。与謝野鉄幹・晶子夫妻が参拝した時に読んだ「しらひげの神のみまへにわいくいづみ これをむすべばひとの消まる」という歌は社前に湧き出る水の清らしさを謳んだもので、上の句は鉄幹、下の句は晶子の合作と伝えられています。

【湖上の鳥居ライトアップ】  
日時：①土曜・日曜日 日没から約2時間 ②9/5 日没から22:00頃まで  
③大晦日 夜明けまで ④1/1～1/5 日没から21:00頃まで  
[お問い合わせ]0740-36-1555



## 川の魔物を取り除く神様 シコブチ信仰

筏乗りを川の魔物から護るという  
安曇川流域独特の信仰

奈良時代最大の内乱「藤原仲麻呂の乱」の  
最終決戦地としても有名。



見学には予約が必要です。  
【針江生水の標査料金】TEL:0740-25-6566  
時間:10:00～16:00 冬期は15:00まで

## 水を使う智慧を伝える 大溝の水辺景観 重要文化的景観



シコブチ神は筏(いかだ)乗りの守護神で、安曇川水系の地域に伝わる独自の信仰です。次のような伝承も残ります。「シコブチ神が鬼子と筏で安曇川を下り、大潮に遭った時、カッパがいたずらをして鬼子を引き込もうとしたので、憤らしめて筏乗りの安全を約束させた」。安曇川は渓流部分が多く、筏師は命がけの大仕事であったことから、危険な箇所には川の魔物を取り除く神「シコブチ神」が祀られたと考えられています。